

第 2 章

門真市の教育を取り巻く状況

1 社会全体における教育を取り巻く課題

(1) 「VUCA（ブーカ）」の時代

「VUCA」とは、現代社会や経済、組織の環境を表す言葉で、今の時代は、「Volatility（変動性）」、「Uncertainty（不確実性）」、「Complexity（複雑性）」、「Ambiguity（曖昧性）」という特徴の頭文字をとって「VUCA時代」と呼ばれています。

国際情勢の不安定さや少子高齢化などにより、将来の予測が困難なVUCAの環境下では、未知の課題に直面した際に、主体的に問題を発見し、多角的に情報を分析し、解決策を導きだす力を養うことも重要となります。

加えて、従来の計画的なアプローチだけでなく、偶発的な状況にも対処できるレジリエンス（強靱性）や変革を受け入れる対応力が必要とされています。

(2) 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の進展

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、社会全体のデジタルトランスフォーメーションが加速しました。小中学校においてもGIGAスクール構想による1人1台端末が整備され、学校のICT環境は飛躍的に進展しました。

このことは教育現場に大きな変革をもたらし、学びのツールや情報活用能力育成のみならず、校務のデジタル化、教育データの標準化・利活用やビッグデータを利用した学習状況の分析など、新たな教育方法の普及に寄与しています。今後教育の分野において、ICTの活用が、特別なことではなく日常のものとなり、デジタル化を更に推進していくことが不可欠となっています。

一方で、このような取組は、データの適正な取扱いやセキュリティ対策も必要になります。また、地域や学校間における格差や、新技術への対応力の向上も課題となっています。

(3) ウェルビーイング (Well-being) への関心の高まり

「ウェルビーイング (Well-being)」は、精神、社会、経済、環境などさまざまな側面が調和していることで、個人と社会が共に充実し、幸福な生活を実現することをめざす理念です。個人の健康や幸福、そして社会全体の持続可能な発展を促進するため、多角的かつ統合的な取り組みを重視する現代の考え方として認識されています。

誰一人取り残されず、一人一人のウェルビーイングを向上するためには、日常の教育活動において、相互に多様性を認め、他者のウェルビーイングを思いやることができる学びを取り入れていくことが求められています。また、子どもたちのウェルビーイングの向上には、教職員のウェルビーイングも重要です。学校が教職員のウェルビーイングの向上につながる場所となることも大切です。

(4) 急速に加速するグローバル化

環境問題やエネルギー問題、感染症、紛争など多くの地球規模の課題が生じています。このような課題を主体的に認識し、国境を越えたグローバルな視点で課題解決に貢献できる人材の育成が必要となっています。

グローバルな人材の育成には異なる文化や価値観の理解と尊重が重要です。そのためには、日本人の海外留学や外国人留学生の受け入れの促進、多文化共生に関する交流活動の推進など、日々の学習の中で国際感覚を育む機会を増やし、グローバルに活躍できる人材を育てる環境整備が求められています。

(5) 共生社会の実現に向けて

近年、いじめや不登校件数、自殺者数の増加、加えて、家庭環境における経済的困難や児童虐待、ヤングケアラーなど、子どもを取り巻く課題は多様化・複雑化しています。

また、社会の多様化が進む中、障がいの有無や年齢、文化的・言語的背景、家庭環境などにかかわらず、相互に多様性を認め、誰一人取り残されることなく、誰もが生き生きとした人生を享受できることのできる共生社会の実現に向けた教育の推進が求められています。

(6) 地域コミュニティや家庭環境の多様化

現代社会では、少子高齢化や人口減少、地方の過疎化が進み、地域コミュニティや家庭環境の多様化が進んでいます。また、共働き世帯の増加やひとり親世帯の増加、核家族化、加えて地域とのつながりの希薄化などにより、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化しています。多様な状況に応じたサポートや連携を図ることがこれまで以上に求められており、すべての子どもが安心して育ち、学べる社会の実現が重要となっています。

(7) SDGsとESDの推進

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、いかなる人も取り残すことなく、環境・社会・経済が持続可能なより良い社会の実現を目指す、国際的に共有される目標です。

また、ESD (Education for Sustainable Development: 持続可能な開発のための教育) は、国連第74回総会において、SDGsの17全目標の実現に寄与する取り組みであることが確認されました。ESDは社会や経済の課題にも焦点を当て、持続可能な未来を築くための問題解決能力の育成、クリティカルシンキング、協働による学びが重要視され、個々の意識改革を促すことを目的としています。

このように、ESDはSDGsを実現するための教育的アプローチとして、今後も推進していくことが重要とされています。

(8) 特別な援助を要する子どもの状況に適したサポート

近年、子どもたちを取り巻く社会環境の多様化により、特別な配慮が必要な子どもへの支援が一層重要となっています。障がいのある子どもや外国にルーツのある子ども、不登校や経済的困難を抱える家庭の子どもなど、その背景やニーズはさまざまです。また、令和5年に施行された「こども基本法」では、すべての子どもが自分らしく幸せに成長できる社会の実現が掲げられています。こうした状況を踏まえ、学校、家庭、地域社会が連携し、一人ひとりが大切にされる場の実現が求められています。

2 国の動向

第4期教育振興基本計画が令和5年（2023年）6月に閣議決定され、「2040年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つのコンセプトが掲げられました。

ウェルビーイングに関しては、自己肯定感や自己実現といった獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育むことで、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させることが重要であると示されました。また、子どものウェルビーイングを高めるためには、教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングも重要であることが示されました。

加えて、一人一人のウェルビーイングの向上を実現するためには、将来にわたってこの社会を持続的に発展させていく必要があります。そのためには多様な他者と協力しながら、社会の創り手として貢献できる人材育成の必要性も述べられました。

3 府の動向

大阪府においては、令和5年（2023年）3月に第2次大阪府教育振興基本計画が策定されました。

この中で、時代を超えて子どもたちが大阪の良さを継承し、将来を生き抜く力を身につけられるよう、大阪の教育が育む人物像として、「人生を自ら切り拓いていく人」・「認め合い、尊重し協働していく人」・「世界や地域とつながり社会に貢献していく人」の3つが掲げられました。

このような人物像を育成するにあたり、幼稚園等から高校までの子どもたちへの教育内容に関する3つの基本方針と様々な主体・要素ごとに定める4つの基本方針が設定され、基本方針に基づく多彩で柔軟な特色、魅力ある教育を提供できる施策等が明示されています。

4 門真市の取り組み

(1) 門真市教育振興基本計画の推進

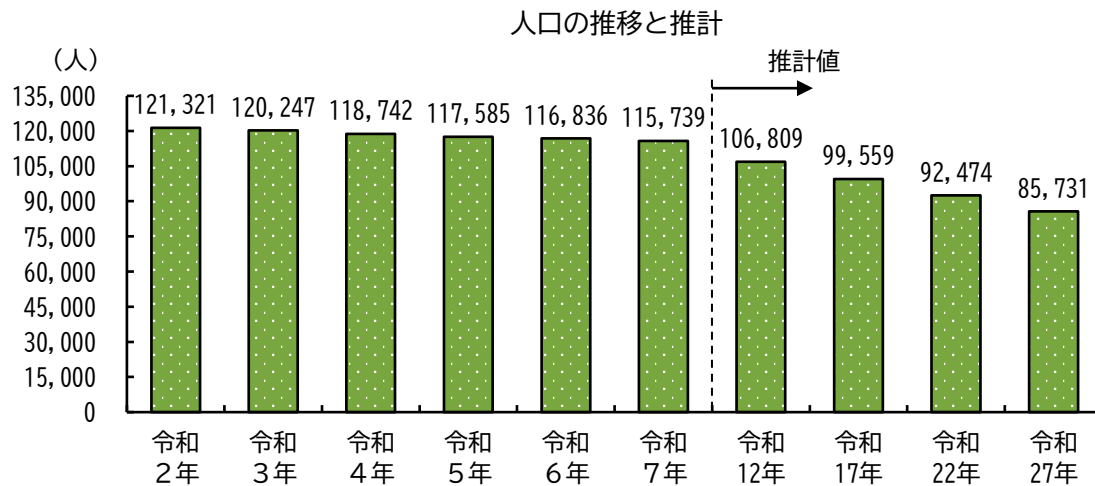
門真市教育委員会においては、令和3(2021)年2月に「門真市教育振興基本計画2021」を策定し、令和3(2021)年から令和7(2025)年度を計画期間として様々な取組を進めてきました。

施策の方向	実施年度	取組内容
【施策の方向1】 確かな学力の育成		
【施策の方向2】 すべての子どもへの学習の支援		
【施策の方向3】 豊かでたくましい人間性の育み		
【施策の方向4】 健やかな体を育てる教育の推進		
【施策の方向5】 教職員の子どもとの関わりの充実		
【施策の方向6】 学校の組織力向上と開かれた学校づくり		
【施策の方向7】 安全・安心・快適な学びの場づくり		

5 門真市の状況

(1) 人口の推移と将来推計

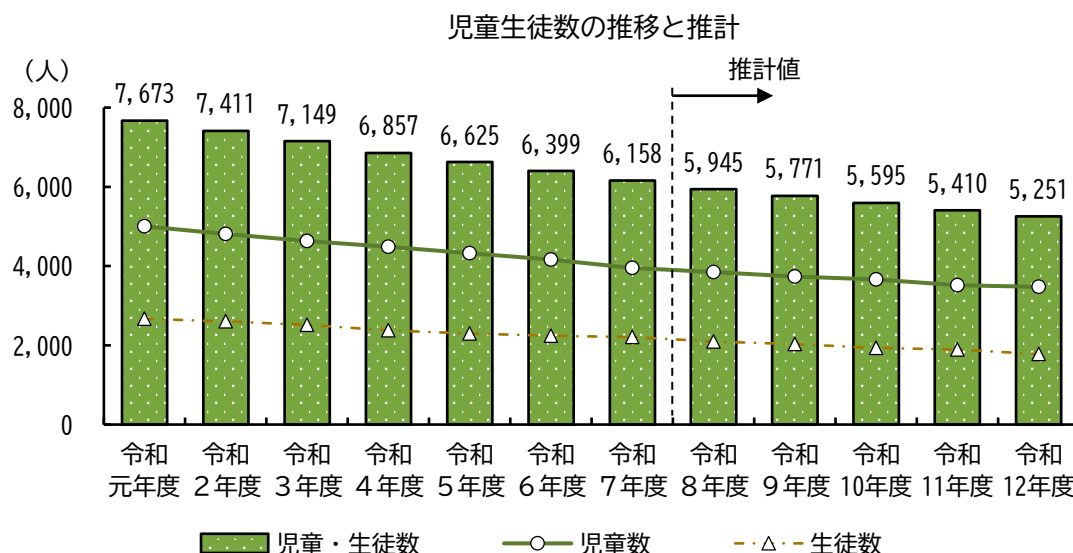
人口は毎年減少しており、今後についても人口減が見込まれています。令和12(2030)年には106,809人となり、令和27(2045)年には85,731人となることが予想されています。



資料：実績値 住民基本台帳（各年4月1日現在）
推計値 国立社会保障・人口問題研究所

(2) 児童生徒数の推移と将来推計

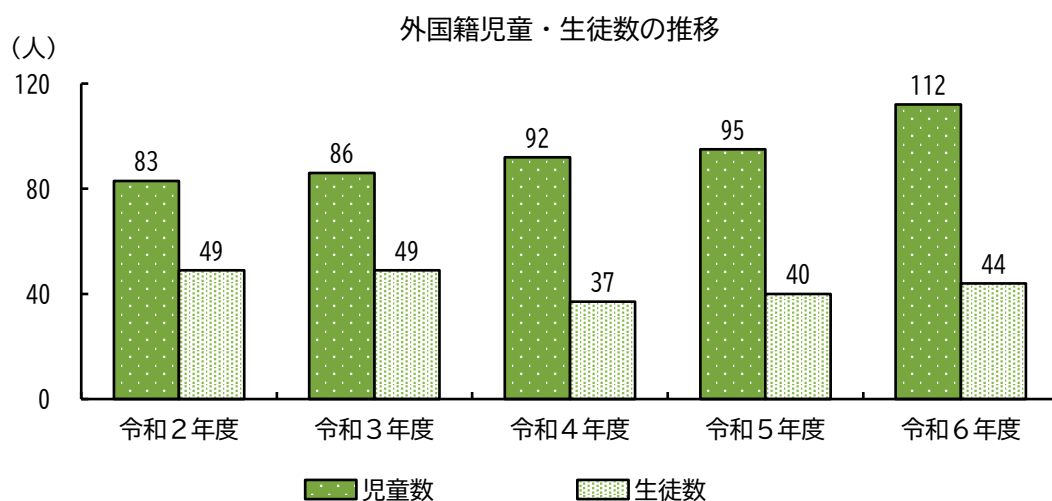
児童生徒数の推移については、人口の推移同様、年々減少していく傾向となっており、令和12(2030)年度には、5,251人となることが見込まれています。



資料：実績値 門真市統計書（各年5月1日現在）
推計値 門真市教育委員会資料

(3) 外国籍児童・生徒数の推移

外国籍児童・生徒数については、年々増加していく傾向となっており、令和6年度には、児童数112人、生徒数44人となっています。



資料：門真市教育委員会資料

(4) 学級数の推移

【小学校】

小学校では、児童数の減少に伴い、学級数も減少傾向にあります。支援学級については、年度ごとに増減が、変化の傾向は見られません。

学級数の推移

単位：学級、人

	学級数【学級】 () 内支援学級	教員数【人】	児童数【人】
令和2年度	228 (68)	380	4,808
令和3年度	223 (69)	333	4,633
令和4年度	225 (72)	345	4,483
令和5年度	213 (63)	342	4,329
令和6年度	215 (68)	350	4,162
令和7年度	206 (67)	352	3,953

資料：門真市統計書（各年5月1日現在）

【令和7年5月1日現在】

単位：学級

学級数 (通常 学級)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
	大和田			上野口	古川橋	門真	二鳥		水桜				門真 みらい
	北巢本						四宮						
	五月田						沖						
							速見						
							東						

【令和12年5月1日現在（推計値）】

単位：学級

学級数 (通常 学級)	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
		上野口	古川橋	大和田	沖	門真	(統合) 四宮・ 北巢本	速見	水桜 (前期)				門真 みらい
五月田						二島	東						

資料：門真市教育委員会資料

【中学校】

中学校では、生徒数の減少に伴い、学級数も減少傾向にあります。支援学級については、年度ごとに増減が見られ、変化の傾向は見られません。

また、学校ごとの学級数を見ると、令和12（2030）年度にはすべての中学校において6～9学級となることが予想されます。

学級数の推移

単位：学級、人

	学級数【学級】 () 内支援学級	教員数【人】	生徒数【人】
令和2年度	98 (29)	203	2,603
令和3年度	98 (29)	201	2,516
令和4年度	97 (29)	205	2,374
令和5年度	92 (26)	203	2,296
令和6年度	89 (24)	203	2,237
令和7年度	92 (26)	207	2,205

資料：門真市統計書（各年5月1日現在）

【令和 7 年 5 月 1 日現在】

単位：学級

学級数 (通常学級)	6	7	8	9	10	11	12
				第七	第四	第三	第二
							第五
							門真 はすはな

【令和 12 年 5 月 1 日現在（推計値）】

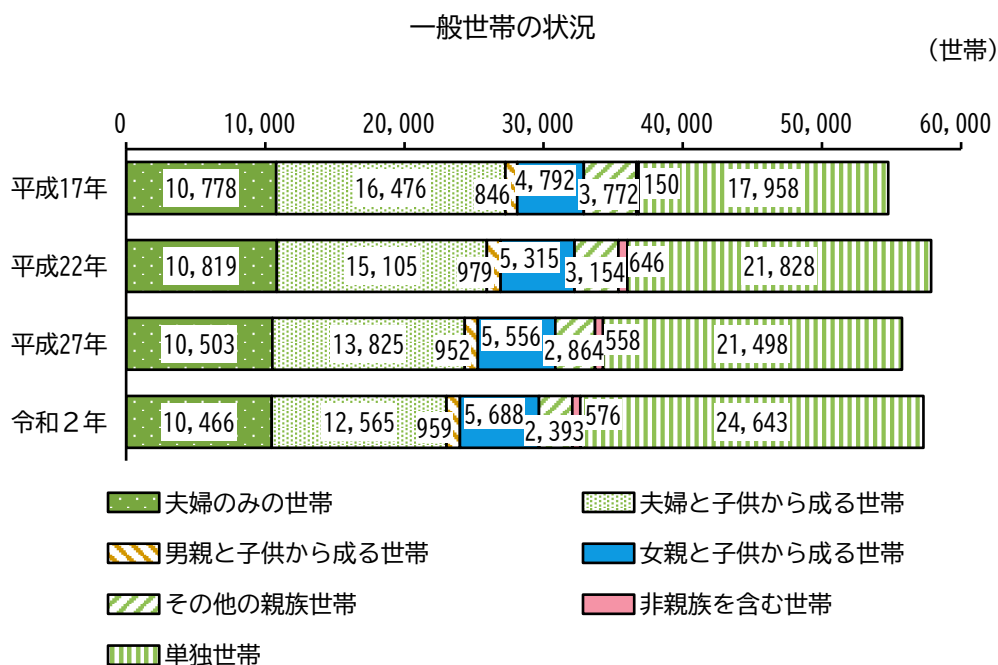
単位：学級

学級数 (通常学級)	6	7	8	9	10	11	12
	第七	水桜 (後期)	第三	第二			
				第五			
				門真 はすはな			

資料：門真市教育委員会資料

(5) 世帯数の推移

世帯状況の推移をみると、「夫婦と子供から成る世帯」「その他の親族世帯」が減少傾向にある一方で、「女親と子供から成る世帯」と「単独世帯」は増加傾向となっています。

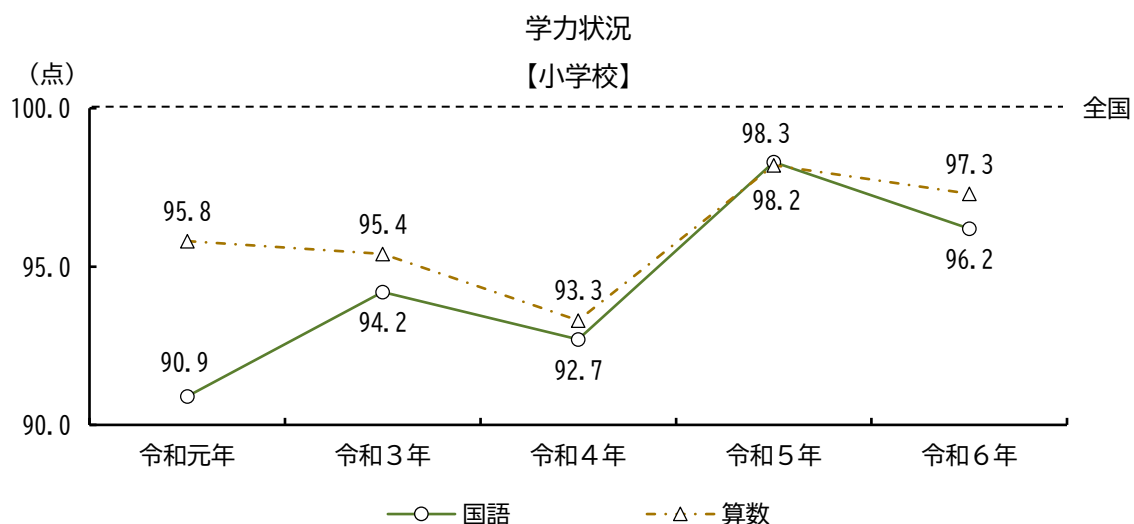


資料：国勢調査

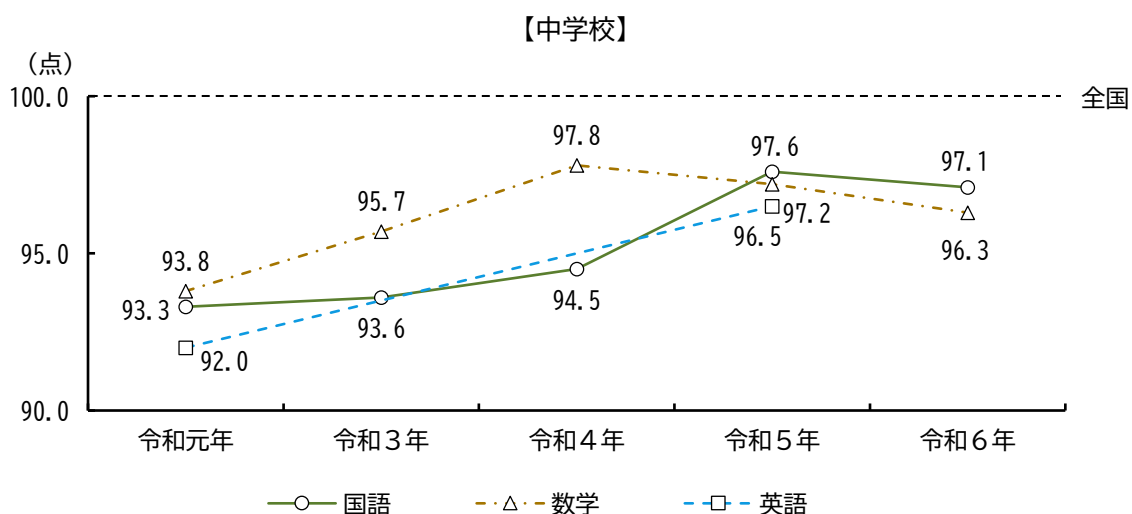
(6) 児童生徒の状況について

①学力状況＜標準化得点を活用した対全国比経年比較＞

小・中学校ともにどの教科も全国平均を下回っている状況です。小学校においては、国語と比べて算数の標準化得点が高い傾向があり、中学校においては、令和5、6年は、数学、国語、英語の差がほとんどない傾向にあります。



資料：全国学力・学習状況調査



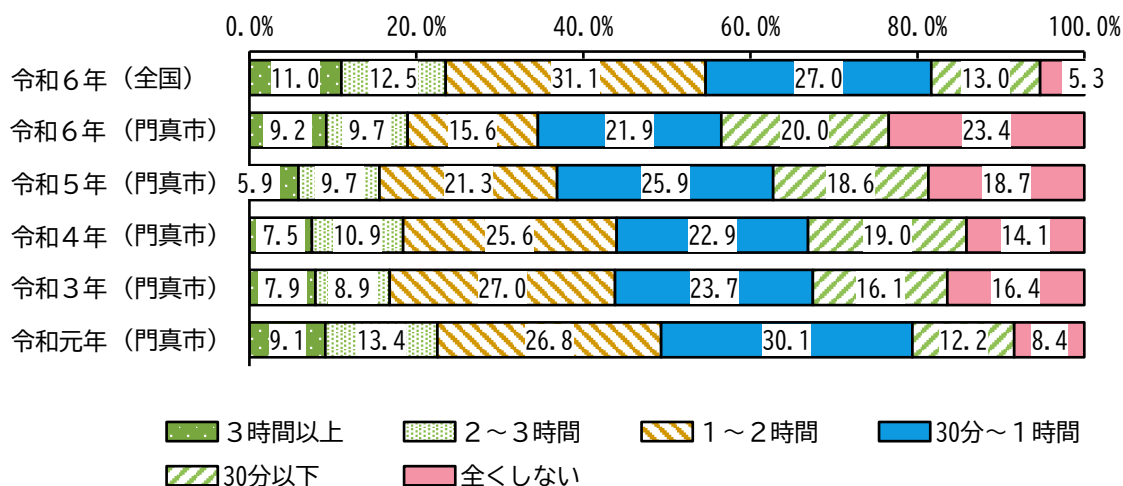
資料：全国学力・学習状況調査

②家庭での学習状況

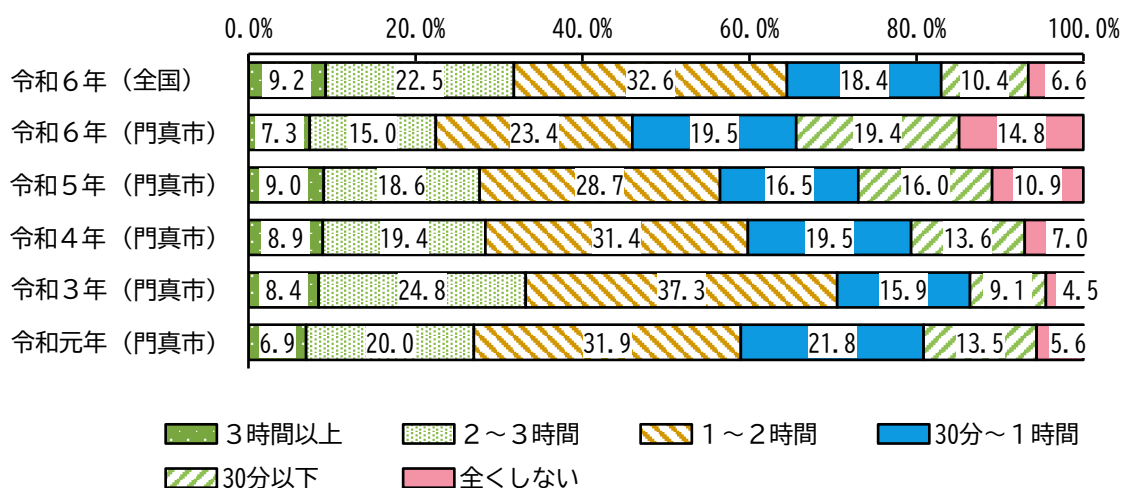
小・中学校ともに「全くしない」割合は増加傾向にあり、全国平均より上回っている状況があります。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりの勉強時間

【小学校】



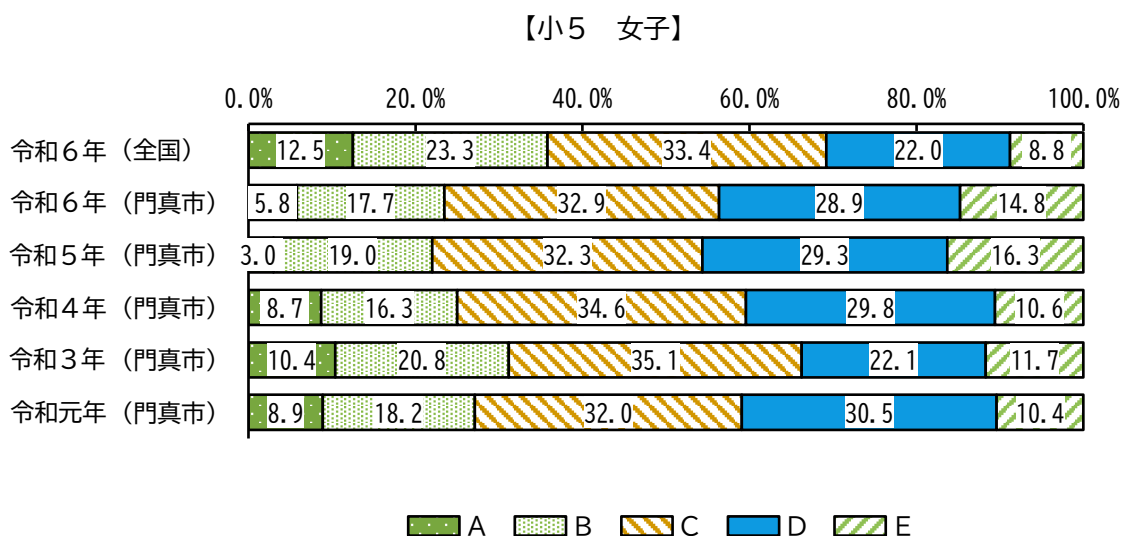
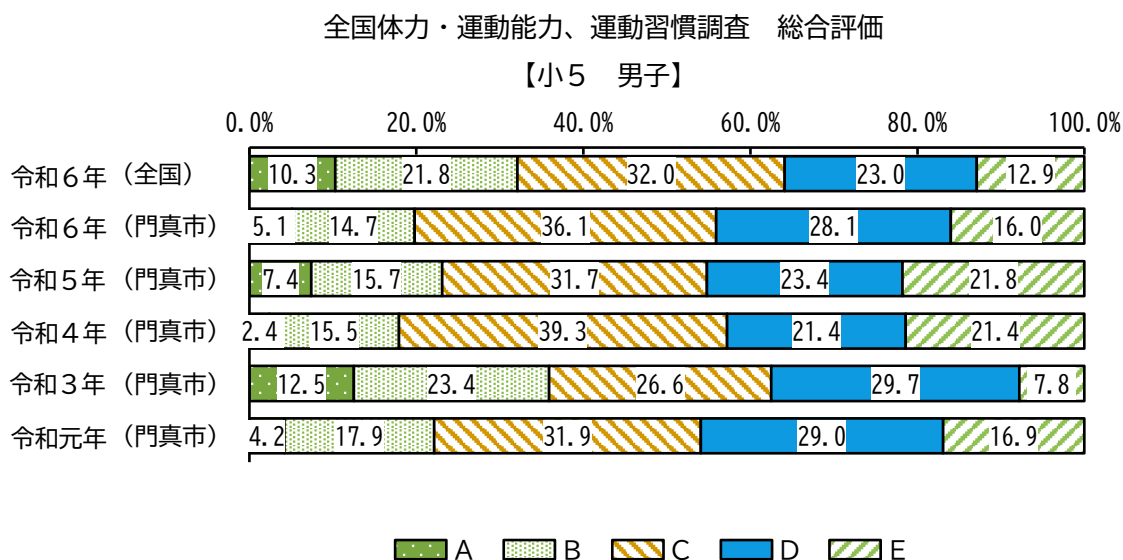
【中学校】



資料：全国学力・学習状況調査

③体力・運動能力の状況

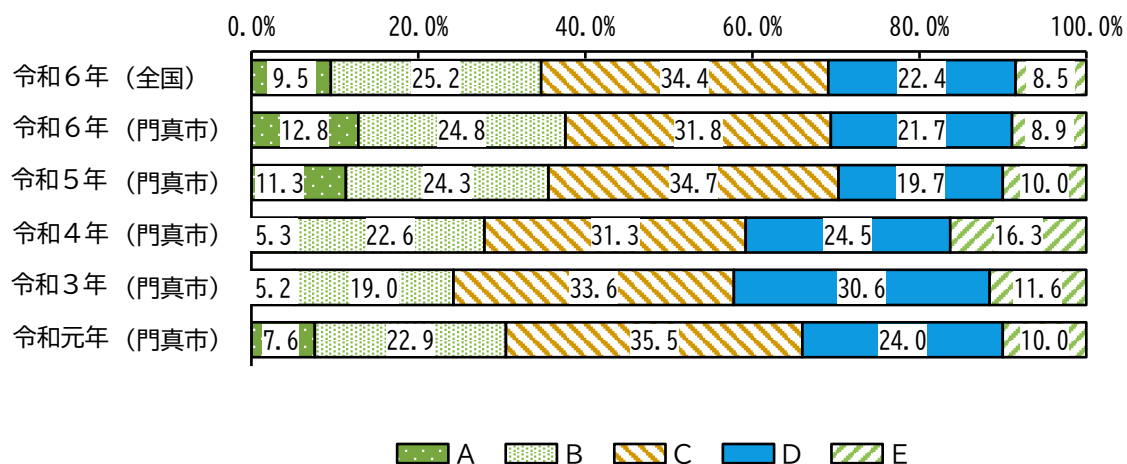
体力・運動能力の状況については、小学校段階では上位項目（A、B）が全国と差が見られますが、中学校段階では全国との差が縮まっている状況があります。



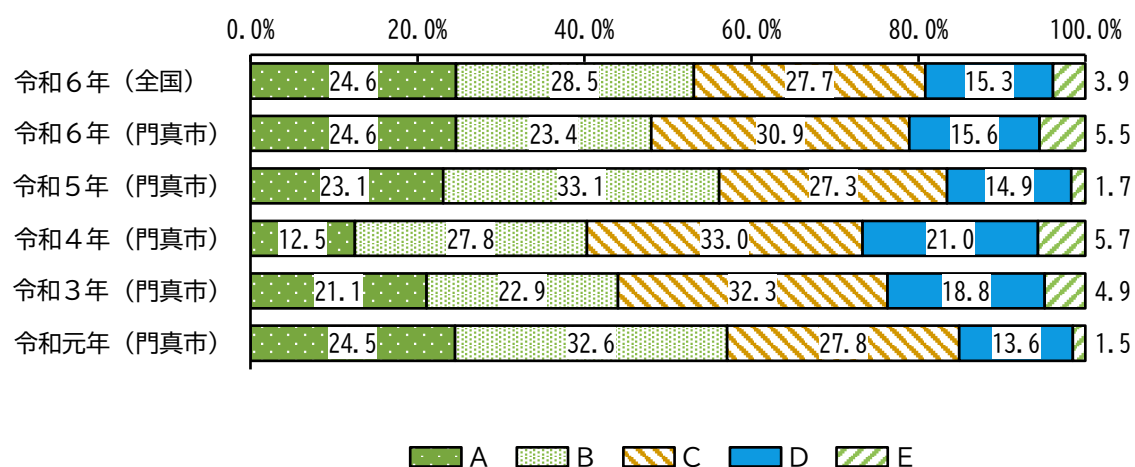
資料：全国体力・運動能力、運動習慣調査結果

全国体力・運動能力、運動習慣調査 総合評価

【中2 男子】



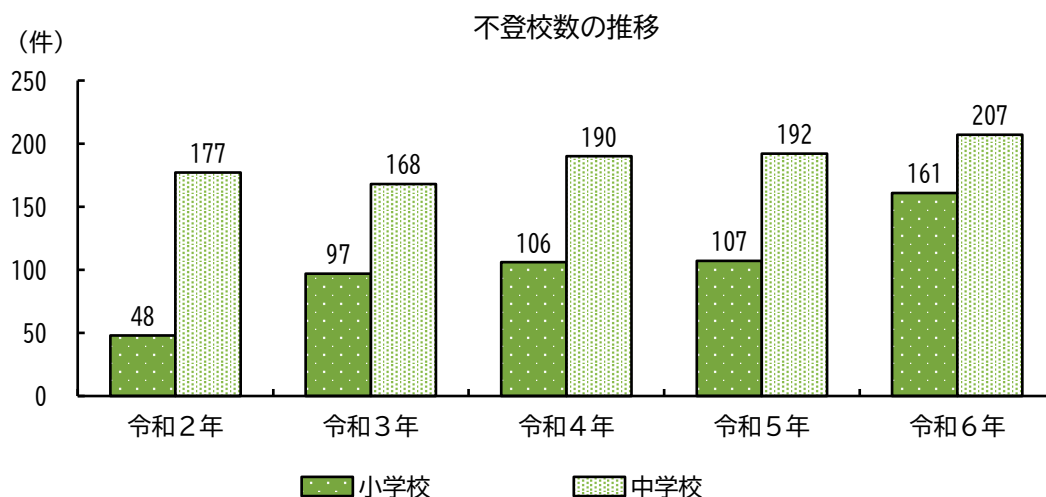
【中2 女子】



資料：全国 全国体力・運動能力、運動習慣調査結果

④不登校数の推移

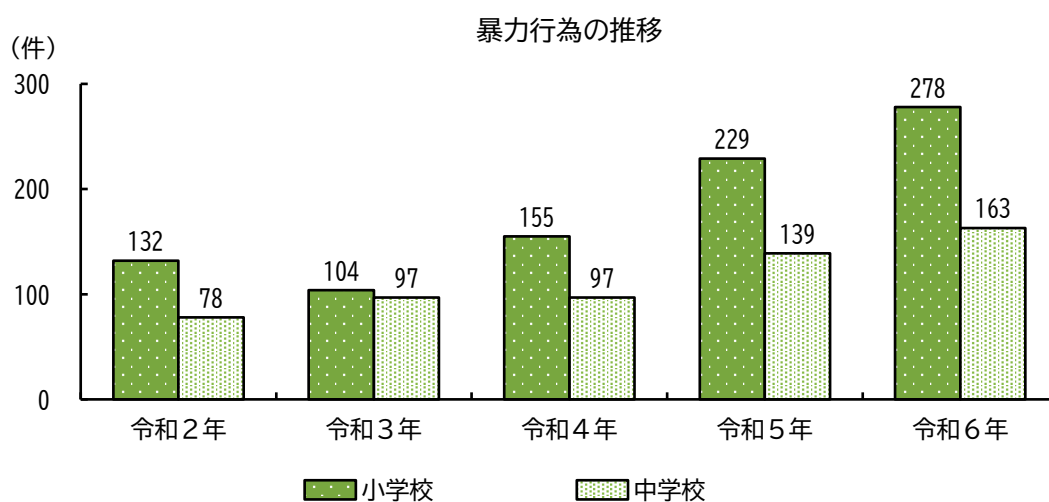
不登校に関しては、小学校に比べ中学校での件数が多くなっていますが、小・中学校ともに増加傾向が見られます。



資料：門真市教育委員会資料

⑤暴力行為の推移

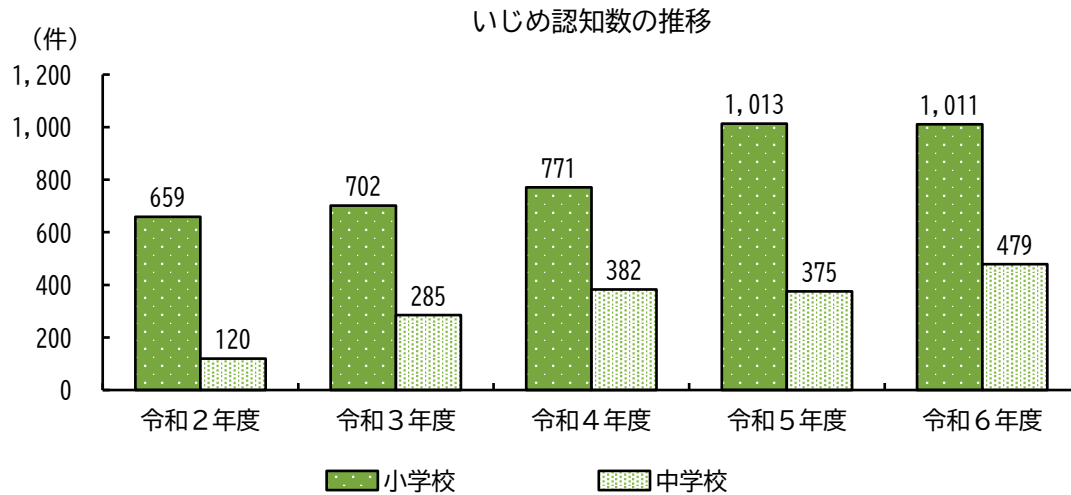
暴力行為については、中学校に比べ小学校での件数が多くなっていますが、小・中学校ともに増加傾向で推移しています。



資料：門真市教育委員会資料

⑥いじめ認知数の推移

いじめの認知数につきましては、件数が増加傾向になっておりますが、いじめ認知の考え方が改められたことが影響しており、積極的にいじめ認知を行っている結果となっております。



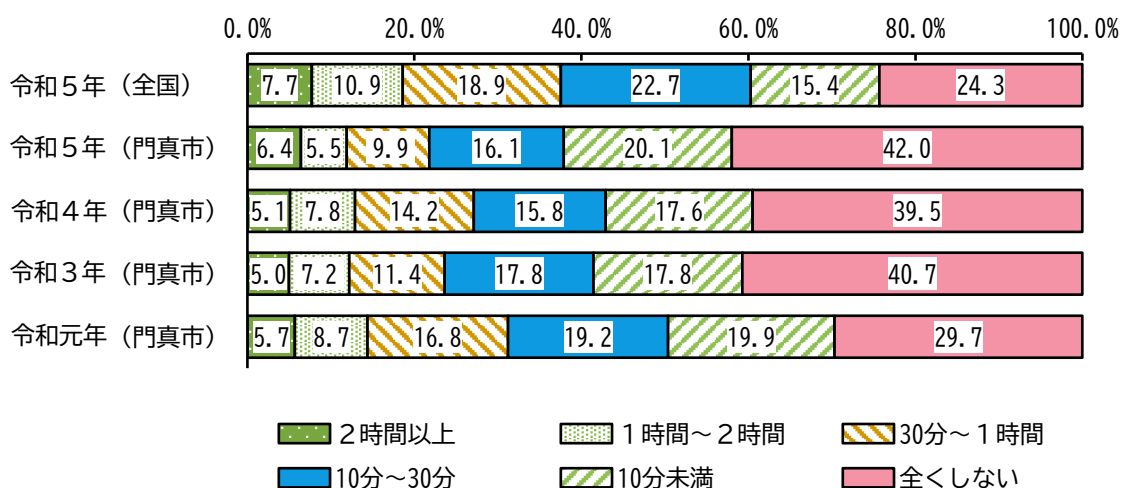
資料：門真市教育委員会資料

⑦読書状況

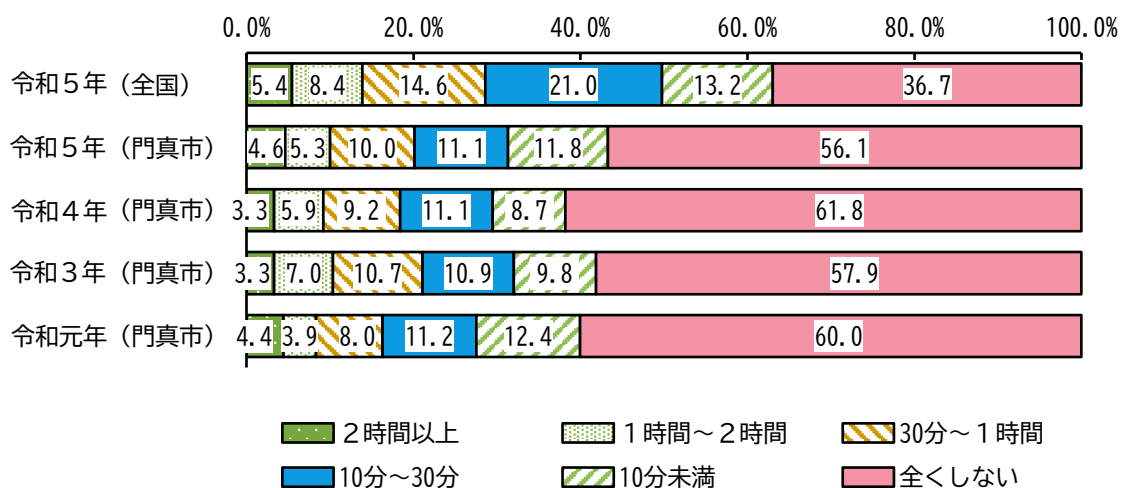
小・中学校ともに、読書を「全くしない」が一番高くなっており、全国と比較しても高い割合となっています。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。
（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【小学校】



【中学校】



※ 令和6年には該当する設問がありませんでした。

資料：全国学力・学習状況調査

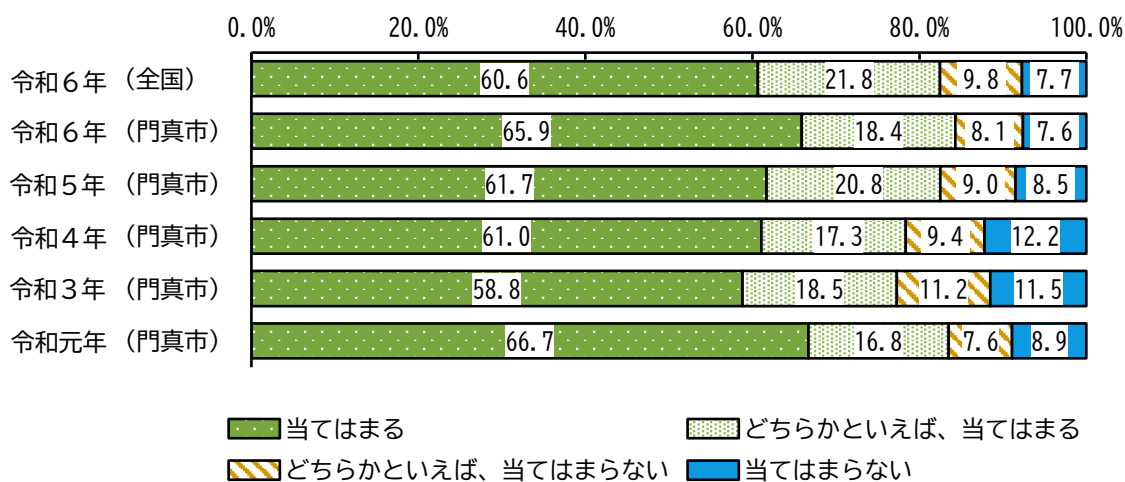
⑧自己肯定感※、自尊感情※について

(1) 夢や目標について

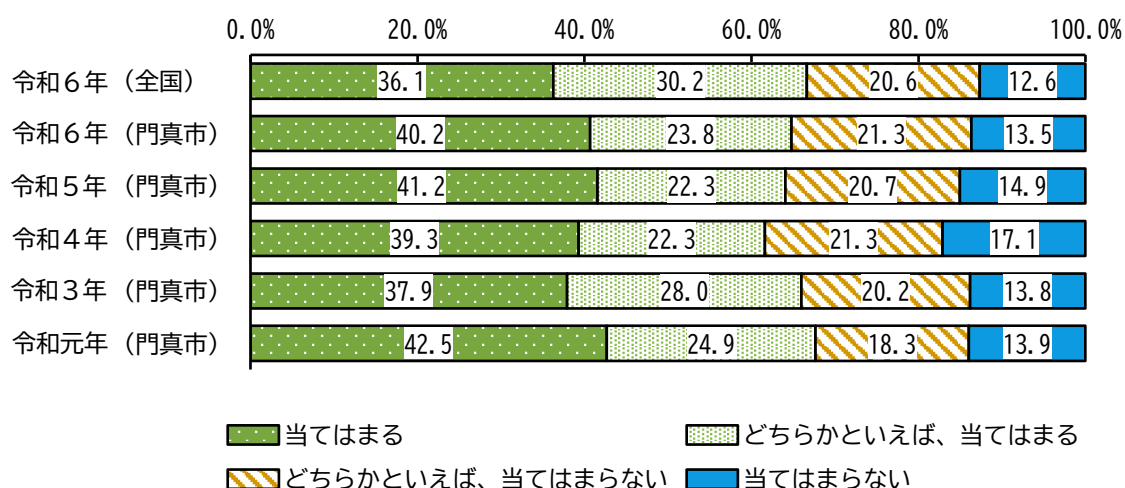
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている割合は、小・中学校ともにほぼ全国と同様であり、令和6年度の結果については、「当てはまる」の割合が全国を上回っています。

将来の夢や目標を持っていますか

【小学校】



【中学校】



※ 自己肯定感 自らの価値や存在意義を肯定する感情。

※ 自尊感情 自分の存在を尊重する感情。

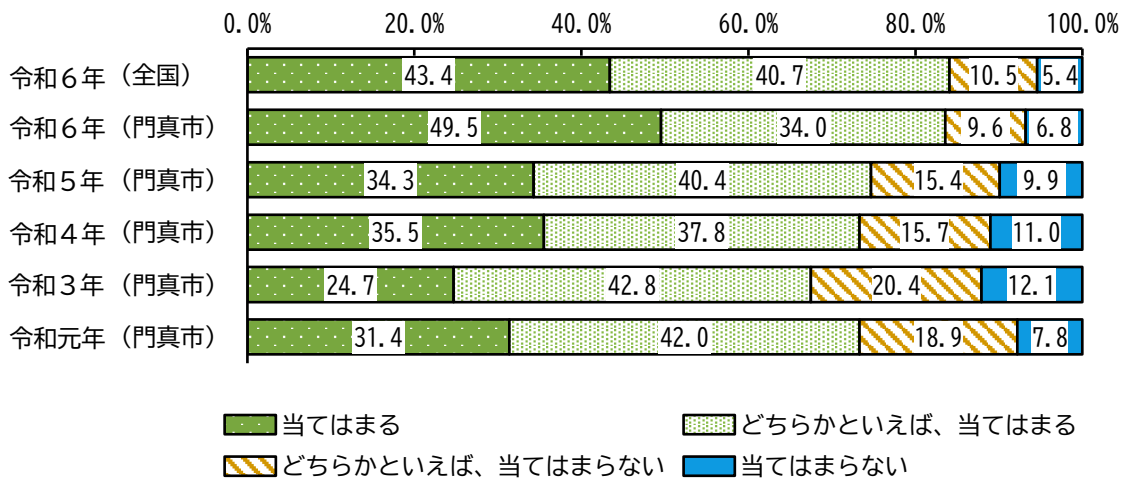
資料：全国学力・学習状況調査

(2) 自分のよいところについて

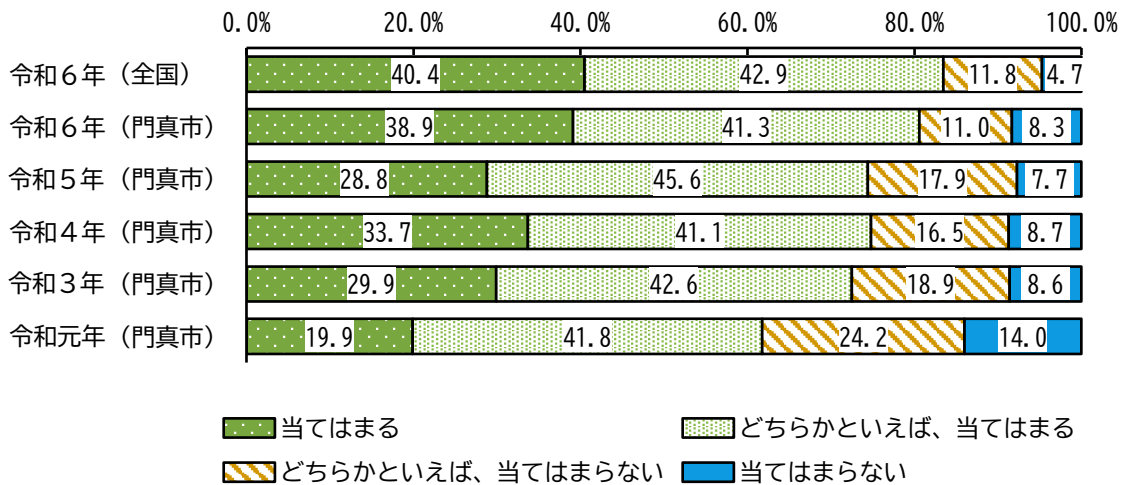
「当てはまる」と答えている割合は、中学校より小学校の方が高い傾向が見られますが、中学校については、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答割合が高くなっている傾向が見られます。また、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えている割合は、ここ数年増加しており、令和6年度の結果は全国と比較しても差はほとんどありません。

自分には、よいところがあると思いますか

【小学校】



【中学校】



資料：全国学力・学習状況調査

(7) 学校施設の状況について

門真市内の小・中学校は、ほとんどの学校で築40年以上が経過している状況があります。全小・中学校において耐震補強工事は実施していますが、大規模改修を行った学校は7校となっています。

学校施設の状況について

【小学校】

小学校名	建築年度	経過年数	大規模改造工事 実施年度
門真小学校	昭和 40 年	60 年	—
大和田小学校	昭和 40 年	60 年	—
二島小学校	昭和 48 年	52 年	—
四宮小学校	昭和 40 年	60 年	—
古川橋小学校	昭和 40 年	60 年	—
沖小学校	昭和 46 年	54 年	平成 27・28 年度
上野口小学校	昭和 46 年	54 年	—
速見小学校	昭和 47 年	53 年	平成 9・10 年度
北巢本小学校	昭和 49 年	51 年	—
五月田小学校	昭和 51 年	49 年	平成 25・26 年度
東小学校	昭和 58 年	42 年	—
門真みらい小学校	昭和 45 年	55 年	平成 17・18 年度
水桜小学校	昭和 51 年	49 年	平成 14・15 年度

※ 令和 7 年度現在。

【中学校】

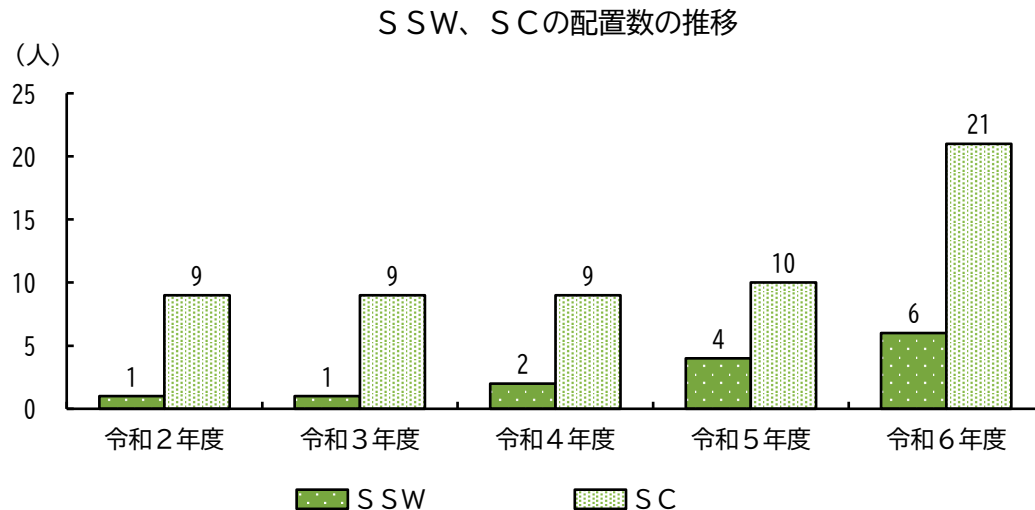
中学校名	建築年度	経過年数	大規模改造工事 実施年度
第二中学校	昭和 39 年	61 年	—
第三中学校	昭和 44 年	56 年	—
第四中学校	昭和 48 年	52 年	平成 11・12 年度
第五中学校	昭和 48 年	52 年	平成 27・28 年度
第七中学校	昭和 53 年	47 年	—
門真はすはな中学校	平成 24 年	13 年	—

※ 令和 7 年度現在。

資料：門真市教育委員会資料

(8) SSW、SCの人数の推移

SSW、SCの配置数の推移をみると、SSW、SCどちらも増加しています。



※ SCには、市子ども悩み相談サポートチーム配置のカウンセラーを含む。

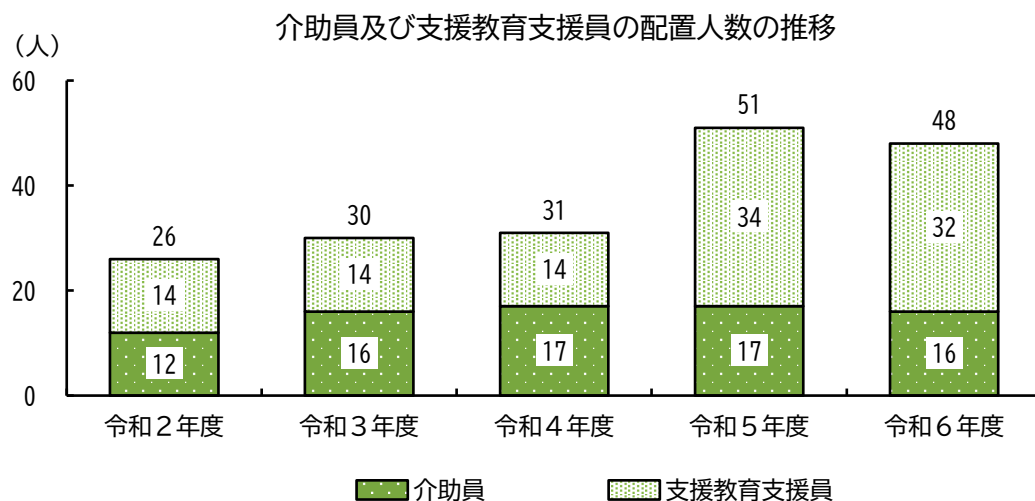
※ SSW（スクールソーシャルワーカー） 問題行動等生徒指導上の課題に対するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童・生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行う社会福祉に関する専門家。

※ SC（スクールカウンセラー） いじめや不登校、暴力行為等へきめ細やかな対応を図るため、児童・生徒の心のケア、保護者・教職員へのアドバイス等を行う心理に関する専門家。

資料：門真市教育委員会資料

(9) 介助員及び支援教育支援員の配置人数の推移

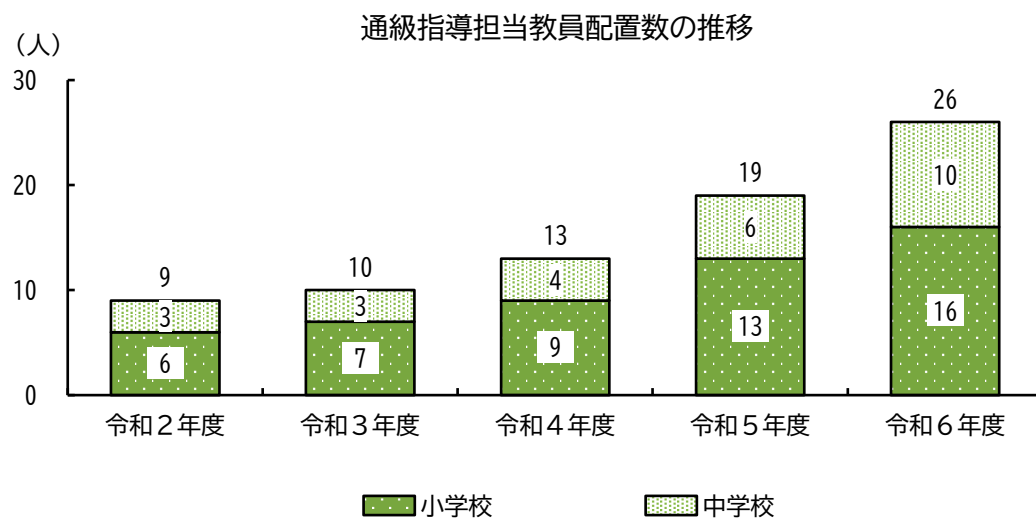
介助員及び支援教育支援員の配置人数の推移をみると、介助員は令和2年度以降横ばいで推移しています。支援教育支援員は令和5年度に30人台まで増加し、令和6年度は32人となっています。



資料：門真市教育委員会資料

(10) 通級指導担当教員配置数の推移

通級指導担当教員配置数の推移をみると、小学校、中学校ともに年々増加しています。



資料：門真市教育委員会資料